

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和6年2月28日
北海道運輸局

協議会名: 宗谷本線調査・実証事業協議会

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)	評価結果	
宗谷本線 調査・実証 事業協議 会	公共交通の利用実態・意向調査の実施【宗谷本線沿線自治体居住者・沿線高校生】 ・宗谷本線沿線において、利用実態を把握し宗谷本線の利用促進等につなげることを目的に、旭川市～稚内市12市町村居住の800名を対象とした公共交通利用実態調査を実施。 その結果、336名の回答があった。 [参考]回答数・回答率の目標 回答数250人 30%→336人 42%	A	本事業の実施により、利用頻度、JRを利用しない理由や、JRが重要だと思ふ理由、今後の利用動向が把握できたので、宗谷本線の利用促進等の検討に活用する。		・事業は計画どおりに実施されている。 ・今後、持続可能性と利便性の高い地域公共交通への再構築に向けて取り組んでいただきたい。
	鉄道・バス共通時刻表の制作・配布[宗谷本線沿線自治体の駅、公共施設、高校、バス事業者等に配布 ・宗谷本線沿線自治体の駅、公共施設、高校、バス事業者等にJRとバスの時刻が一目にわかる時刻表を56,036枚を作成し、配布した。]	A	JRとバスの時刻が一目にわかる時刻表を作成・配布することで、観光をはじめとした利用者の選択肢を増やし、需要を喚起するとともに住民に対してもマイカーから公共交通への転移を図った。 今後は、単に鉄道・バス共通時刻表の作成するのみならず共通時刻表から明らかになる接続の改善の検討材料にも活用する。		
	高校直通バス[稚内市、幌延町、豊富町、稚内高校、稚内大谷高校、宗谷バス、JR北海道] ・稚内高校、稚内大谷高校への高校直通バスの実証運行(幌延～稚内)を通じて鉄道とバスなどの組み合わせにより利便性向上につながるか調査を実施した。 ・8月21日～29日(土日除く)に登下校時に利用されている普通列車と同時時間帯で乗車できる高校直通バスを運行。 ・目標21人/人に対して、実績は19人/日だった。 ・利用者にアンケート調査を実施した。	A	高校直通バスは、運休や遅れが生じるリスクが少なく、学校までの運行となっていたことから、アンケート結果からも利用者の満足度が非常に高く、利便性が高いことが明らかになった。一方、下校時は下校時間にバラつきがあるため、列車ダイヤに加えた運行が必要になるなど課題もある。バス運行は、沿線地域の公共交通の維持・利便性向上を図るための選択肢の一つであり、鉄道など現状ある地域交通手段の組み合わせにより、利便性の高い地域公共交通の構築に向け、さらなる検証を進める必要がある。		
	地域住民向け特急利用の促進[名寄市、美深町、音威子府村、中川町、幌延町、豊富町、稚内市、JR北海道] ・名寄市、美深町、音威子府村、中川町、幌延町、豊富町、稚内市の地域住民を対象に各区間の特急料金(指定席も可)から10円を差し引いた額を助成した。 ・9月1日から30日まで実施をして片道利用が44件、申請件数は22件だった。 ・利用者にアンケート調査を実施した。	A	地域住民向けアンケートは、利用実績からは利用者増加の効果が高いとは言えないが、利用者アンケートから、特急利用の契機となったことが確認できる。とりわけ、低頻度利用者層に利用の契機を与えたり、特急利用を見直す効果があったといえる。		
	比布駅・剣淵駅における特急列車の停車[比布町、剣淵町、JR北海道] ・現行、特急列車が停車していない比布駅、剣淵駅に特急そうやを停車させ、利便性向上により特急列車の利用者増加を図れるか検証した。 ・8月21日から9月3日まで実施をして比布駅の利用者71人、剣淵駅の利用者23人だった。 ・利用者にアンケート結果を実施した。	A	・公共交通全体でフリークエンシーを向上させ、通勤・通学の利便性を高めていくための取組みについて、交通事業者等と検討していく必要がある。		